日建設計

共創型社会環境デザインプログラム

FUTURE LENS

NIKKEN

Dec 2024

本プログラム概要

本共創研究プログラムの目的

PURPOSE

我が国では少子化・高齢化による人口減少や地域の担い手不足に加え、地方都市においては地場産業の衰退など、人の暮らしや地域社会を脅かしうる社会課題は、深刻さを増しています。こうした状況に対し、これまで120年以上に渡り、建築・都市領域を基軸に新たな体験価値を届けるため、社会環境デザインの先端を切り拓いてきた日建設計は、ありたい未来社会の実現に視点（=レンズ）を向け、地域社会の課題に先駆者として取り組んでいる企業等と手を取り合い、課題解決を促進していきたいと考え、本プログラムを始動します。

既に価値の認められているソリューションだけではなく、取り組む課題の意義や事業の価値を理論構築していくことで社会実装の実現に導いていくことが本プログラムの目的です。

新しい人の暮らしや社会のあり方を共に考え、創り出すことのできる仲間を募集します。是非多くの皆さまからのご応募をお待ちしています。

ABOUT

――「社会起業家」と「建築都市の専門家」による共創型社会環境デザインプログラム ――

社会起業家が取り組む事業の持つ

定性的な価値の体系化 や

いち早くピントを合わせ始めている

社会課題の可視化 を通じて、

彼らの「未来への視点（FUTURE LENS)」

を社会に広げるための仕組みです。

日建設計・PYNT紹介

日建設計について

日建設計とは

- 建築の設計監理、都市デザイン・地域計画、及びこれらに関連する調査・企画・コンサルティング業務を行うプロフェッショナルサービスファームです。
- 1900年の創業以来、時代や環境変化に伴う要請に応えて数多くのプロジェクトを推進しています。

日建設計の特徴

- まちに求められる機能を構想し、中長期で新しい価値を社会に実装

  未来の建物や都市における提供価値や必要な機能を構想し、初期段階で盛り込むべき要素を抽出し、基本戦略や設計に反映。構想・計画から実装まで、数十年単位での中長期にわたるまちづくりに取り組み、新しい価値を着実に社会実装まで導いています。

- 人の暮らしや、その背景にあるシステムを含めた「社会環境」をデザイン

  人の暮らしや目には見えない社会システムを含めて「社会環境」と捉え、建築や都市の設計に取り組んでいます。行政や民間、地域住民など多様な関係者と協調し、必要な制度改定や仕組みの提案を行いながら、時代に合った社会環境の実現に挑戦してきました。

- 120年以上にわたり、時代と社会ニーズに応えるまちを手がけた経験と専門性

  120年以上にわたり、一貫して時代の要請に応えるまちづくりを実現。こうして培ってきた建築と都市に関する経験と知見、そして建築設計事務所最多の一級建築士を始めとした、多種多様な社員の専門性と技術を組み合わせることで、新たな価値の創出を目指しています。

これまでのプロジェクト事例

東京スカイツリー®の設計

- 世界一高い自立式電波塔である東京スカイツリーと、足元にある商業施設の設計を手がけています。
- 未知の高さに挑戦するにあたり、安全性を確保するため最新技術を結集。地震や強風にも揺るがない構造システムを生み出しました。
- さらに、デザインや色彩に日本古来の美意識を取り入れ、時代を超えて人々の記憶に残る新しいランドスケープを創り出しています。

東京スカイツリーの詳細記事はこちら

©TOKYO-SKYTREE

グラングリーン大阪の都市開発

- JR大阪駅前において、ターミナル駅直結では世界最大級の都市公園を中心とした開発を行いました。公民連携により、敷地全体で建築とみどりが一体化した空間デザインを創出し、「公園の中にあるまち」を実現しています。
- 都市緑化の価値を、温室効果ガス削減など5つの評価軸で可視化する「みどりのものさし」も実施しています。

グラングリーン大阪の詳細記事はこちら

撮影：Akira Ito.aifoto

原爆ドームの耐震補強工事

- 原爆ドームの耐震補強工事では、遺跡の持つ複雑な歴史と人々の想いをそのまま未来に繋げていくために、文化的価値と耐震性の両立を目指した設計が行われました。
- 最新の耐震技術ではなく、「文化財的価値や尊厳」を守ることを優先して手法を検討。未来に可逆性を残しつつ、外観の変更のない、必要最小限の対策で補強が行われました。

原爆ドームの詳細記事はこちら

瑞浪北中学校でのゼロエネルギー化

- 地域特性を生かした省エネ技術と子供たちへの環境教育を取り入れ、学校施設として日本で初めてゼロエネルギー化を達成。
- 瑞浪の伝統的な陶器窯の仕組みを取り入れた階段など、建造物での工夫に加え、生徒がリアルタイムで環境を確認・操作できる「エコモニター」を各教室に設置するなど、生徒の自発的な省エネ行動を促す仕組みを校内に取り入れてます。

瑞浪北中学校の詳細記事はこちら

撮影：車田保

PYNTとは …まちの未来に新しい選択肢をつくる共創プラットフォーム

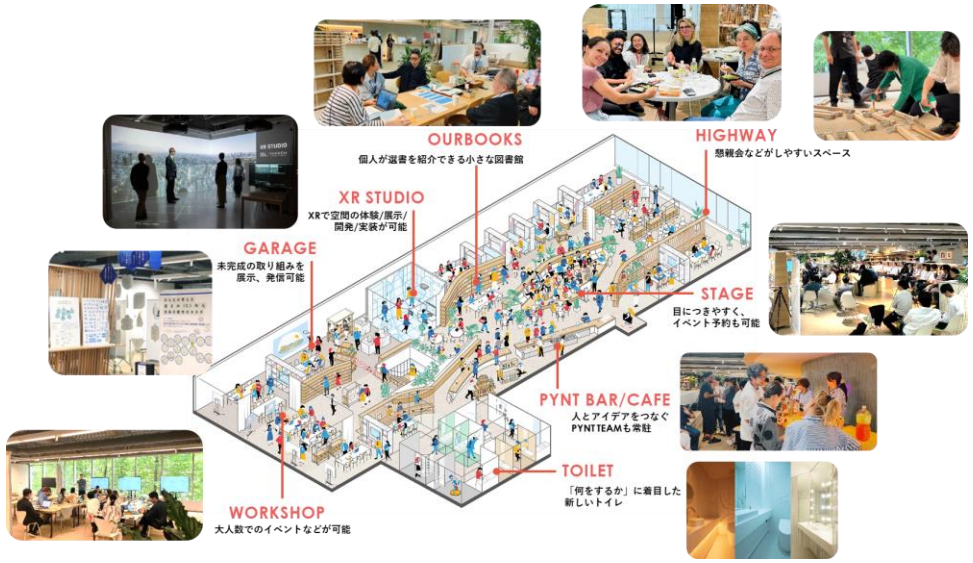
PYNT（ピント）は、「課題の当事者や解決の担い手」と「建築や都市の専門家」をつなぎ、まちの未来に新しい選択肢をつくる共創プラットフォームです。まちと暮らしを自分たちで良くしていくための新たなアイデアや仕組みを生み出すことを目指し、組織や立場を超えた出会いを通じて、変化のきっかけになるプロトタイププロジェクトを生み出します。

パーパス … 社会環境を“共有財”の視点でリデザインする

誰にとっても歩きやすい道や、気持ちいい公園、低コストで安全な移動、地球に負荷をかけないエネルギー、包摂性の高い地域コミュニティなど、「無意識に共有している大事なもの」を私たちひとりひとりの「共有財」として捉え直し、今ある事業や制度を多くの人が関われる形にリデザインしていくことで、よりよい未来をつくることを目指しています。

設立背景

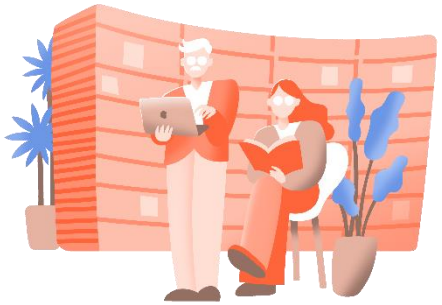
日建設計は、これからの未来を見据えた社会環境デザインをつくるために、課題解決への取り組みや新領域への事業拡大などを進めてまいりました。しかし、同時に、複雑で多岐に渡る社会課題は一企業で短期的に解決できるものではないということもより顕在化されてきました。地球・都市・社会が直面する課題に対し、これまでの当社の経験を活かしながら、建築や都市の専門性を超えたより多くの知見とノウハウを集積させることで、あるべき未来を指向した解決策を生み出すため、2023年4月日建設計東京本社オフィス3階にPYNTを設立しました。

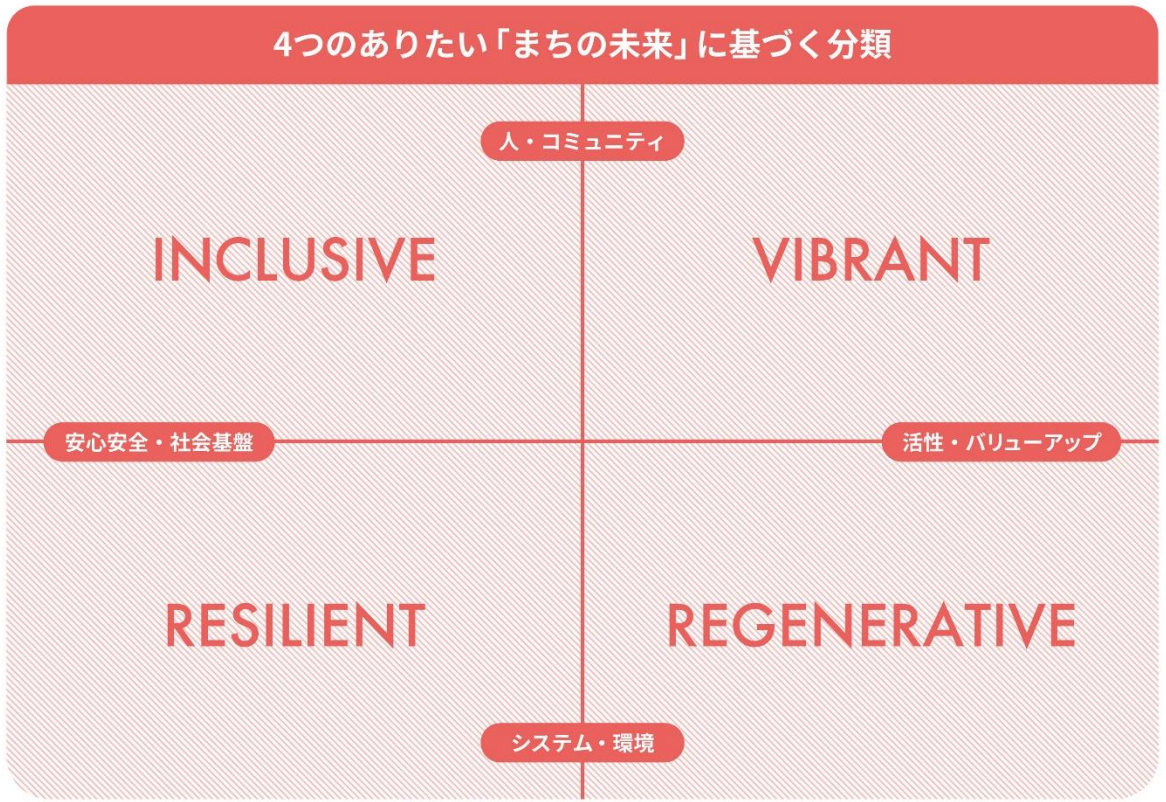


PYNTの注力テーマ（FUTURE COLLECTIVES）

FUTURE COLLECTIVES / 社会環境デザイン
について詳しく知りたい方は[こちら]

「まちの未来に新しい選択肢をつくる共創プラットフォーム」の実現に向けて、
PYNTでは「ありたいまちの未来」を4つのテーマで捉えています。





INCLUSIVE

あらゆる人が共生し、誰もが自分らしく暮らせるまち

VIBRANT

ワクワクや楽しさが詰まった、活気あふれるまち

RESILIENT

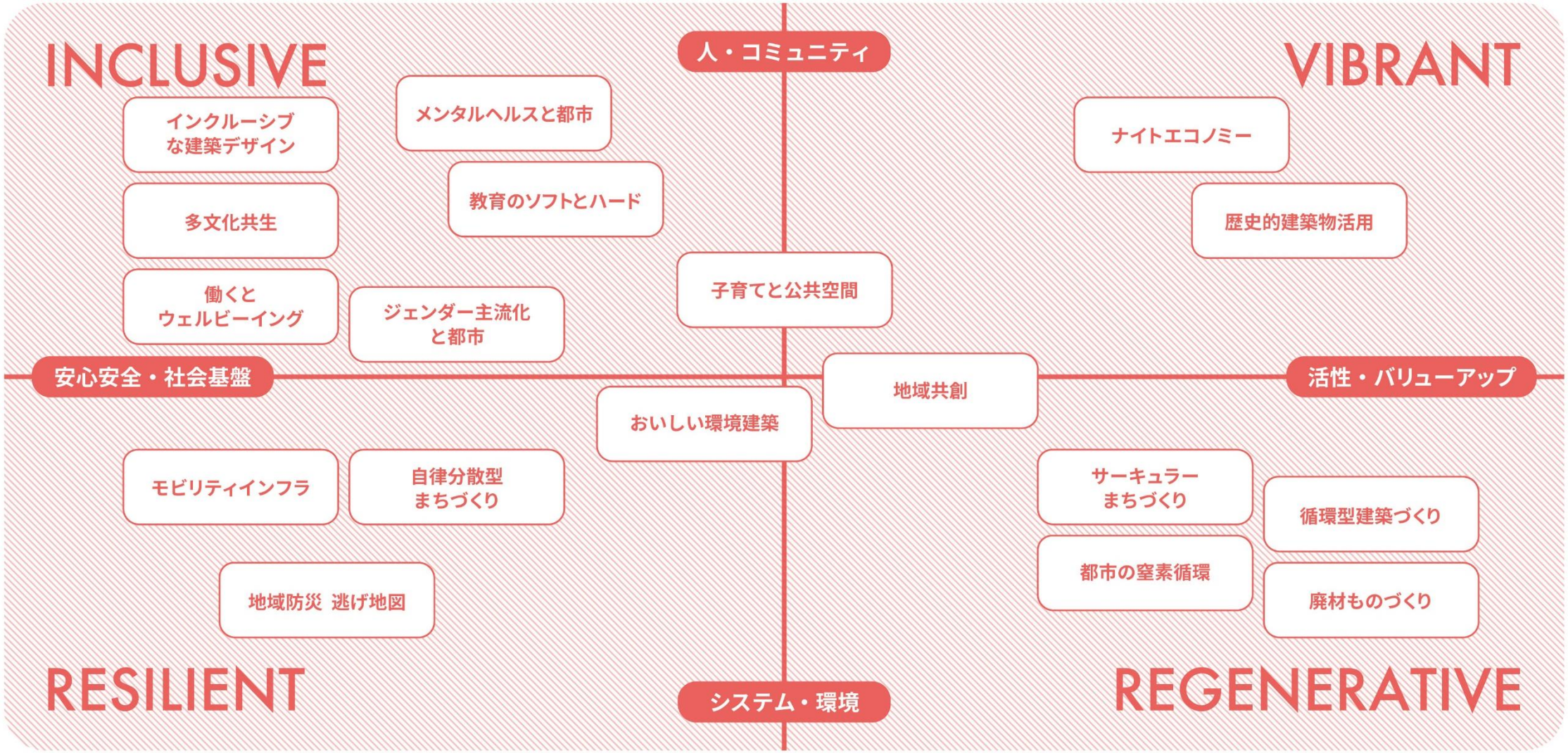
リスクに備え、直面する課題に柔軟に対応できるまち

REGENERATIVE

自然環境に優しく、持続可能な暮らしを実現するまち

PYNTの注力テーマ（FUTURE COLLECTIVES）

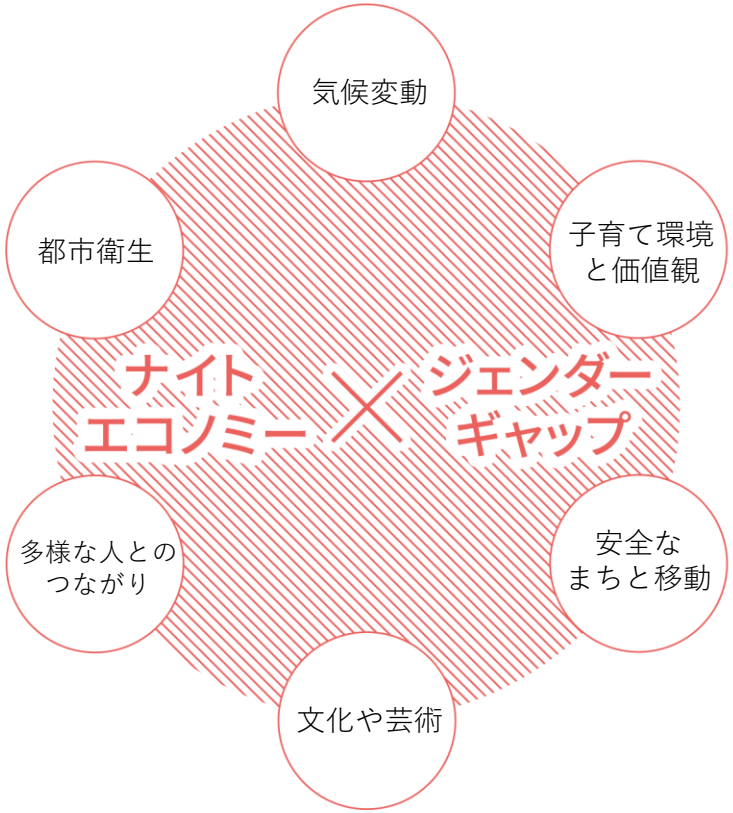
FUTURE COLLECTIVES / 社会環境デザイン
について詳しく知りたい方は[こちら]

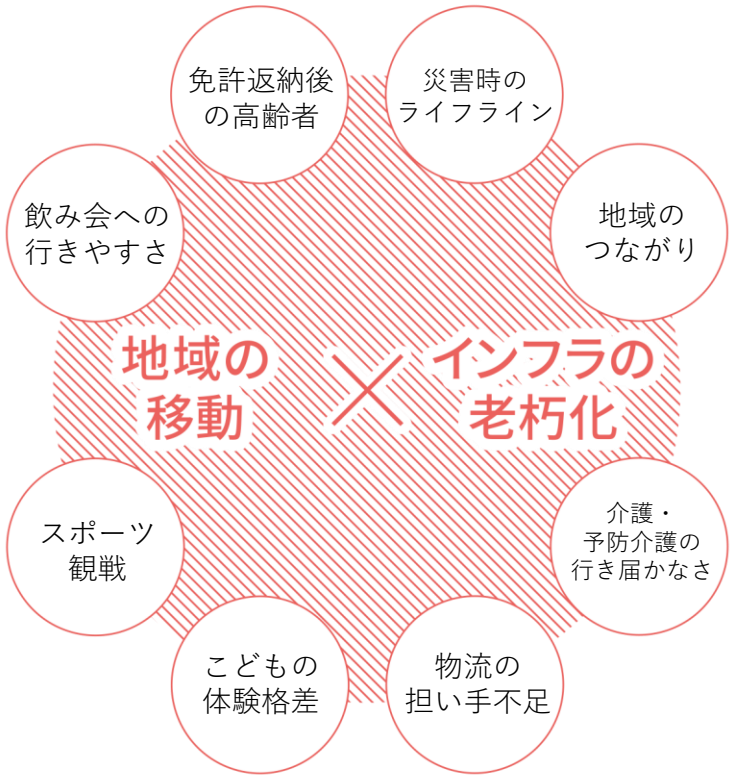


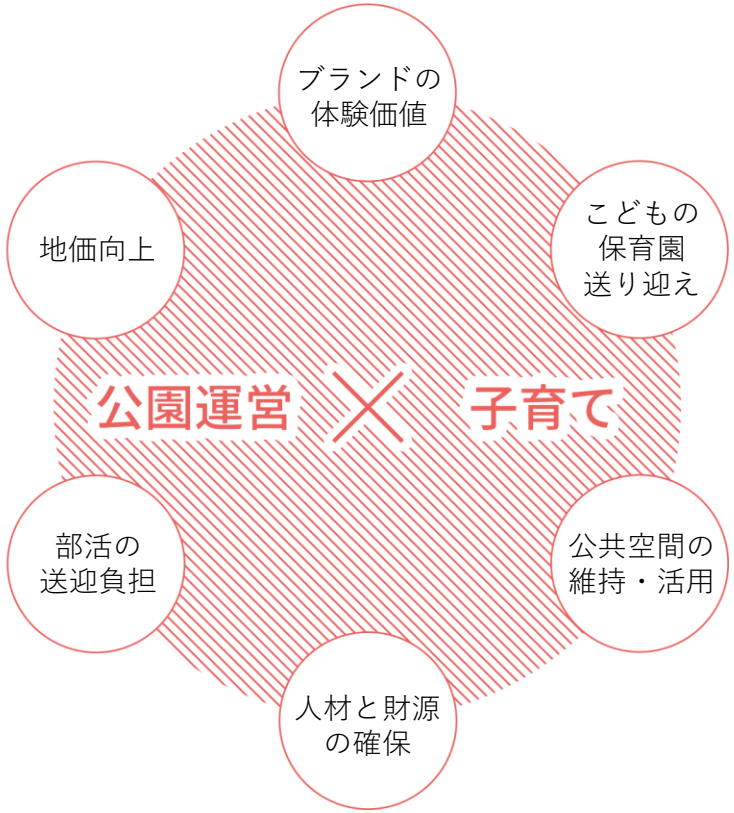
PYNTのアプローチ：共創による社会環境デザイン

FUTURE COLLECTIVES / 社会環境デザイン
について詳しく知りたい方は[こちら]

共創における社会環境デザインとは、例えば、社会に横たわる個別の課題を、まちや空間を媒介として、複合的に解く仕組みをつくり、人の暮らしや環境をより良くすることをさします。「個別の課題」であっても「まちづくりの視点」から捉えすことで、全体最適となる具体的ソリューションを提案し、様々なステークホルダーとの利害調整を通じて、課題をリフレームした上で、新しい社会と環境をデザインすることが目指します。

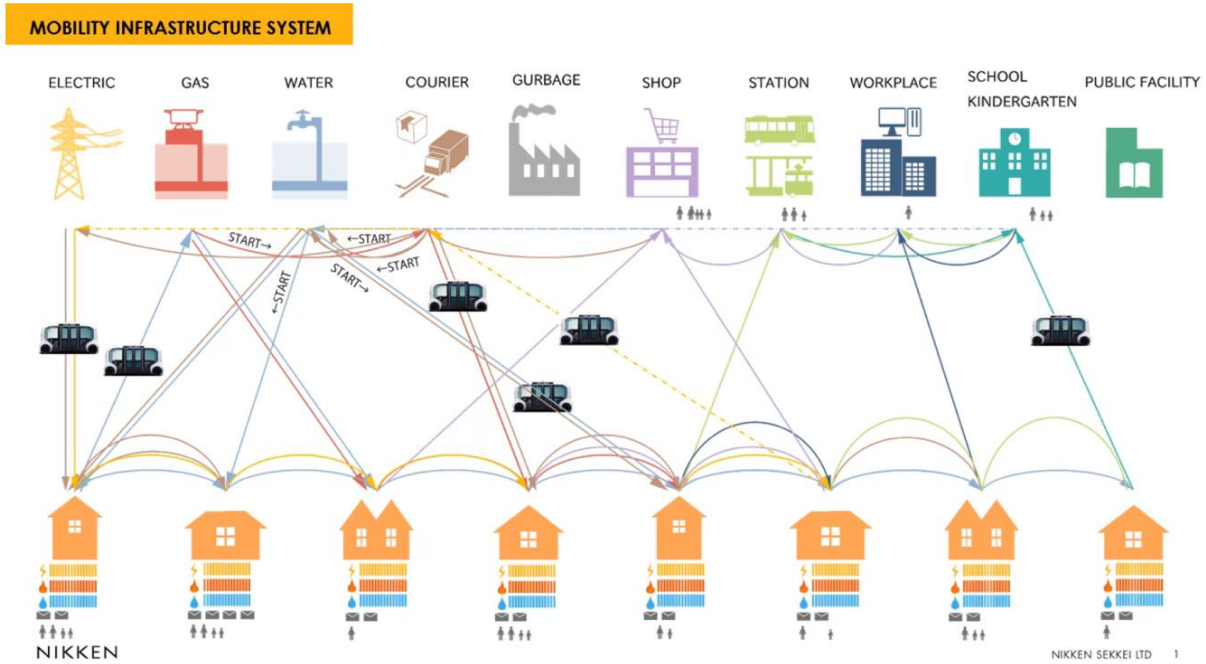






PYNTのアプローチ：共創による社会環境デザインの具体例「Community Driveプロジェクト」

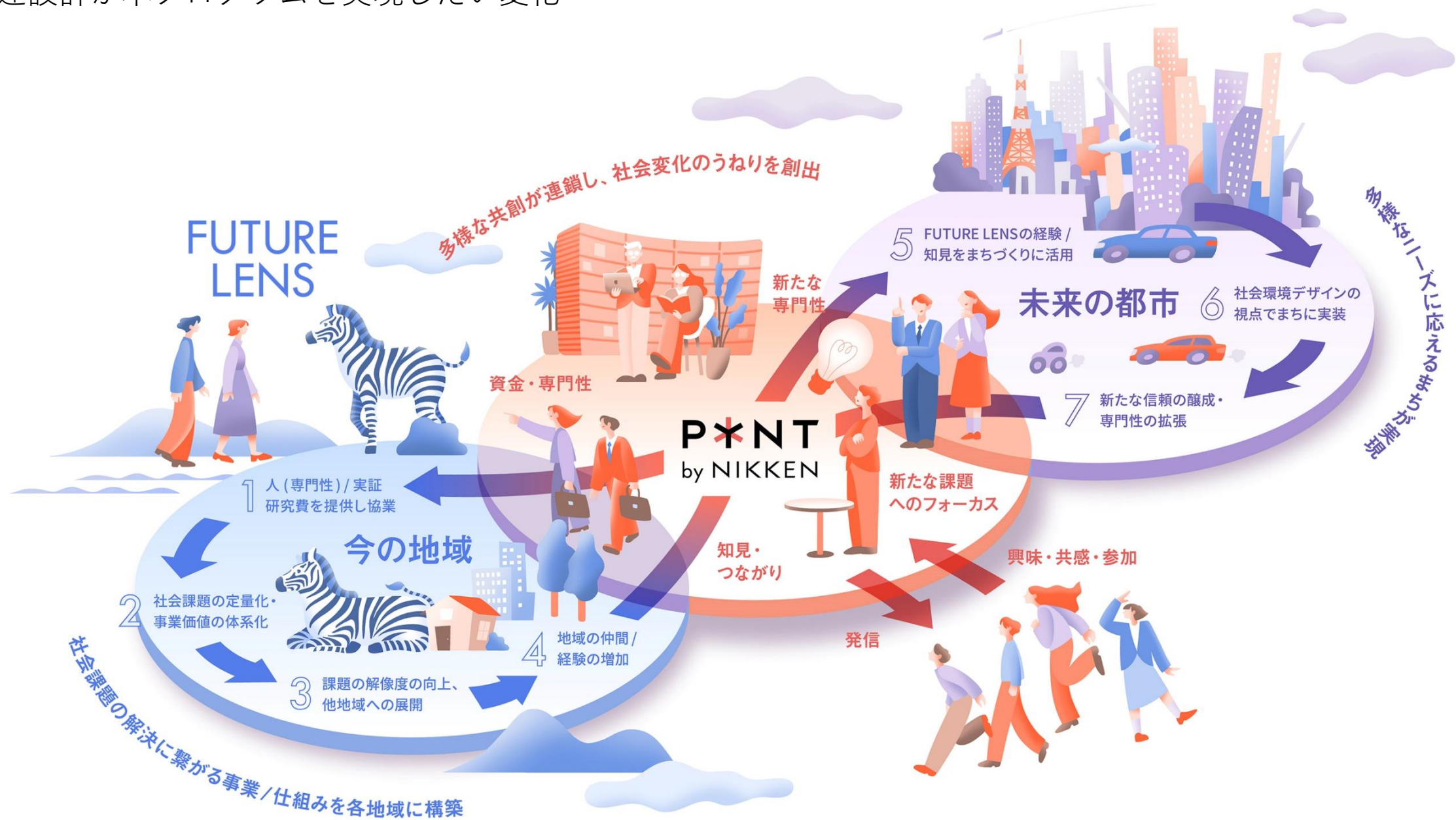
地域の移動やインフラの課題を
リソースを統合することで持続可能にできるか？



一般社団法人SMARTふくしラボと富山県黒部市での共創プロジェクト。地域の移動やインフラの課題が深刻化する一方で、技術ドリブンの解決策では“今多少我慢してもなんとかなっている”地域には根付かない。そんな中、ソリューションを決めずに地域にある移動の需要と余剰リソースを可視化し、産官学民の対話から解決策を共創するプロジェクトを行っている。

図解総研 VISUAL THINKTANK　NIKKEN EXPERIENCE, INTEGRATED　一般社団法人 SMARTふくしラボ

日建設計が本プログラムを実現したい変化



FUTURE LENSについて

再掲）FUTURE LENSとは

――「社会起業家」と「建築都市の専門家」による共創型社会環境デザインプログラム ――

社会起業家が取り組む事業の持つ

定性的な価値の体系化 や

いち早くピントを合わせ始めている

社会課題の可視化 を通じて、

彼らの「未来への視点（FUTURE LENS)」

を社会に広げるための仕組みです。

FUTURE LENSの仕組み

本プログラムのテーマ

本プログラムでは、ありたいまちの未来に関する4つのテーマに対して、「社会課題や事業価値を可視化・定量化」、「制度を読み解き、仕組みを生み出す」ことに取り組むことで事業を前進させることを目指します。

PYNTの注力テーマ

INCLUSIVE
あらゆる人が共生し、誰もが自分らしく暮らせるまち

VIBRANT
ワクワクや楽しさが詰まった、活気あふれるまち

RESILIENT
リスクに備え、直面する課題に柔軟に対応できるまち

REGENERATIVE
自然環境に優しく、持続可能な暮らしを実現するまち

×

本プログラムの取り組み

価値をはかる

取り組む社会課題の可視化や事業の価値を定量化することで、課題に対する認知を高め、事業を前に進める。

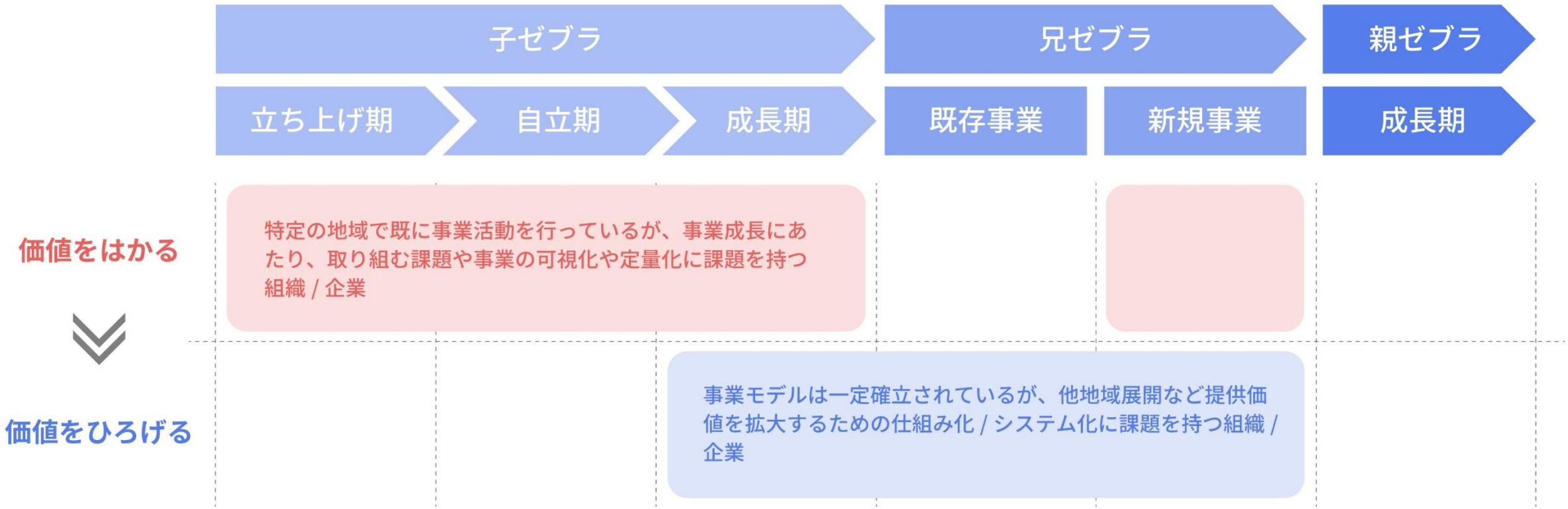
・取り組む課題の構造化
・地域内ニーズの可視化
・事業の影響/インパクトの定量化、など

価値をひろめる

制度を読み解くことや、仕組みをつくることで、事業拡大の再現性を高める。

・都市計画制度を活用した事業戦略づくり
・他地域展開に向けた事業のモデル化、など

対象企業(イメージ)



【価値をはかる】 取り組む社会課題や事業価値の可視化・定量化

取り組む社会課題の認知や課題構造の解像度の向上、事業拡大を目指し、地域で生じている課題の重要度・深刻度や事業から生み出される社会的価値を定量化。

【価値をひろげる】 制度の読み解きや仕組みづくりによる事業展開

他地域展開や事業戦略の策定を目指し、まちに関する 制度を読み解くことや、まちに必要な仕組み・システムをつくることで事業拡大の再現性を向上。

日建設計の提供価値（1/2）

日建設計と共創する価値：多様な関係者との合意形成や、まちに実装する多彩な技術と実績

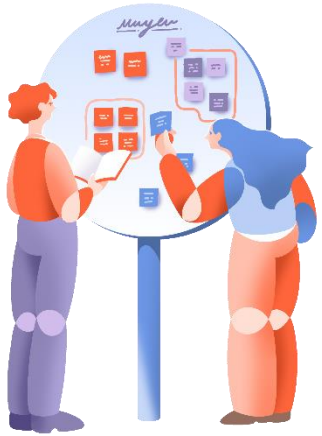
社会起業家のもつ「価値を定量化できていない」「事業を一歩前に進めるために課題を構造化したい」「どのようにまちに展開していけばいいかわからない」といった課題に対して、日建設計が持つ3つの力で応えます。

専門性や人をつなぎ、関係者を調整して「まちに確かな一歩を実装する」力

価値をはかる力

価値をひろげる力

> 事例集1を見る（#情報）



可視化する

> 事例集2を見る（#環境）

定量化する

> 事例集3を見る（#未来）

制度を読み解く

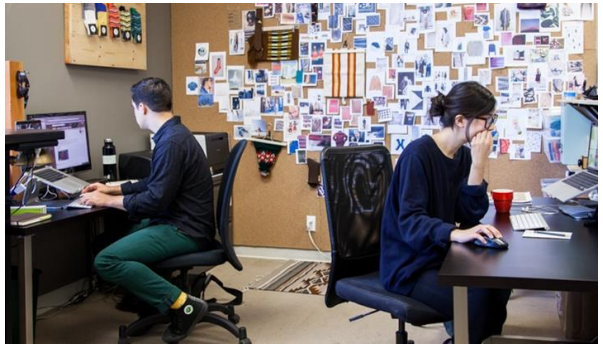
> 事例集4を見る（#渋谷）

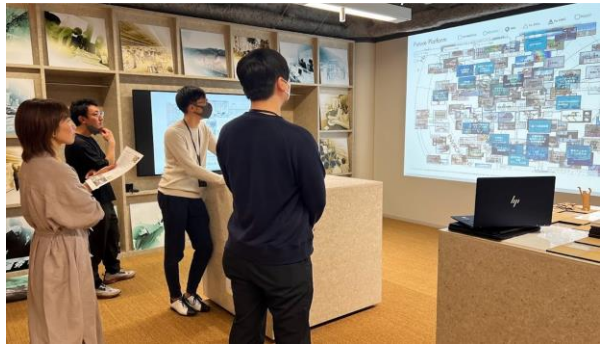
仕組みをつくる

日建設計の提供価値（2/2）

日建設計と共創する価値：PYNTを活用して、共創環境を創って、仮説を深度化できる

PYTNには空間としてのイベントや展示を行える発信の場があり、WSスペースやプロジェクトルームを活用しての活動も可能です。また、社会課題解決に関心のある様々な専門性をもった人とのネットワークがあるため、仮説をもってひとを繋ぐ提案力もあります。





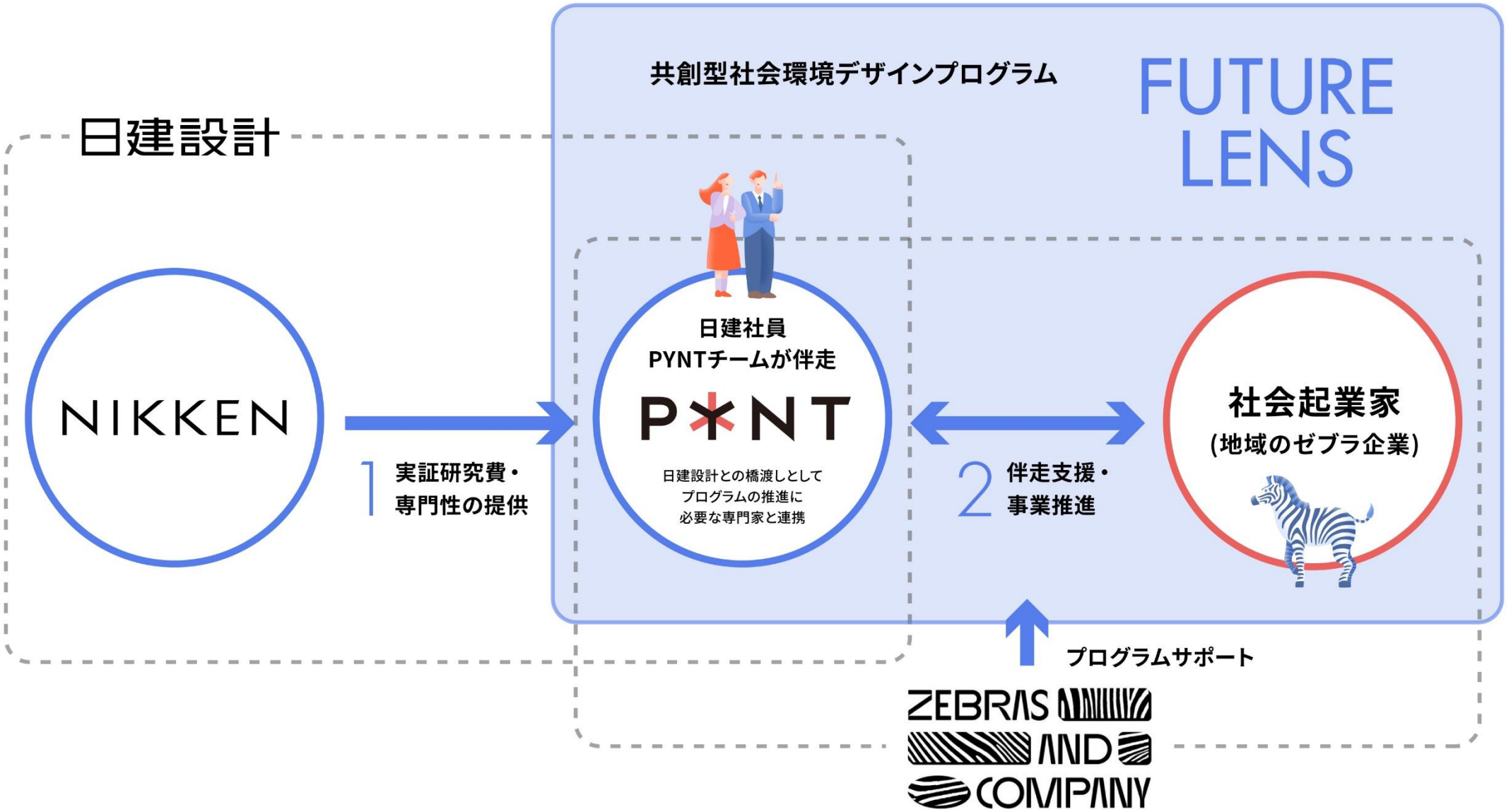
イベントや展示を行える発信の場

WSスペース・プロジェクトルーム

PYNT MEMBERSとの多様なネットワーク

PYNTの共創プロセス：Community Driveプロジェクトの場合

本プログラムの支援体制



株式会社Zebras and Companyについて

本プログラムでは、日本でゼブラ企業の支援を行っている
「株式会社Zebras and Company（ゼブラアンドカンパニー）」と共同で運営いたします。

ゼブラアンドカンパニーとは

「Different scale, Different future」をテーマに、誰もが社会課題解決と持続的で健康的な企業経営に挑戦できる「優しく健やかで楽しい社会」を目指し、投資と経営支援を行う会社です。投資・経営支援、行政や金融企業との連携、「ゼブラ企業」に関するリサーチと情報発信を通してゼブラ的経営を体系化し、ゼブラ経営の社会実装を目指しています。

ゼブラ企業とは、短期・独占・株主至上主義といった現在の資本主義のあり方を象徴する「ユニコーン」に対して、アメリカの女性起業家4人によって2016年に提唱された概念です。日本では、ゼブラアンドカンパニーの創業者が2019年から啓蒙普及を開始し、当初から数多くのローカルゼブラ企業から反響がありました。2023年度・2024年度には、国家戦略として骨太の方針の中にゼブラ企業の推進が明記されるなど、日本国内でも着実にゼブラ企業のムーブメントが広まっています。

ゼブラアンドカンパニーは、設立当初より全国各地のローカルゼブラ企業と連携し事業に取り組んでいます。詳細はHPをご覧ください。

https://www.zebrasand.co.jp/

ZEBRAS AND COMPANY

ゼブラ企業の4つの特徴

1. 事業成長を通じて、より良い社会をつくることを目的としている
2. 時間、クリエイティブ、コミュニティなど、多様な力を組み合わせる必要がある
3. 長期的でインクルーシブな経営姿勢である
4. ビジョンが共有され、行動と一貫している

本プログラムの内容

本プログラムでは、実証研究費だけでなく、日建設計の社員が伴走支援いたします。日建設計の持つリソースを最大限に活用いただき、ともにプログラムを推進していきたいと考えております。

（※ 本プログラムにおける事業主体者は採択企業となります。実証研究で生じた事故等の責任は負いかねますのでご了承ください）

金額・期間

年間最大500万円

原則2年継続

（但し、成果報告等を踏まえ、毎年継続判断を実施）

伴走支援

採択企業ごとに日建設計PYNTチーム・Z&Cが伴走支援を担当

（事業推進サポート、プロジェクト管理、日建設計のリソースとの接続など）

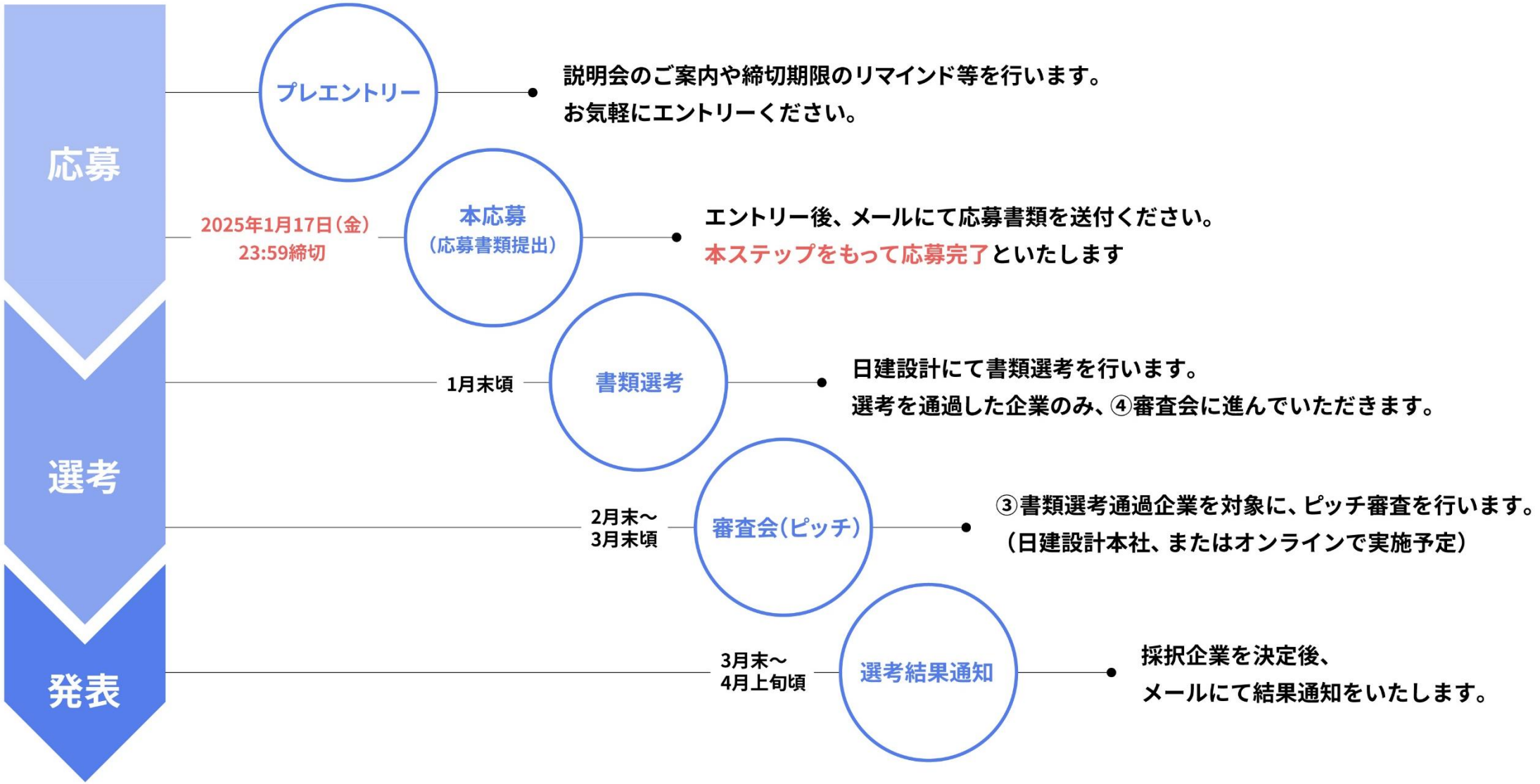
週1回の稼働を目安とし、原則本プログラムに関する活動のみ対象

加えて、PYNT MEMBERS（PYNTの共創パートナー：日建設計社外の方）が参加する場合がございます

（採択企業の皆さまには事前確認を行います）

応募・選考について

選考プロセス・スケジュール



応募方法

応募の流れ

以下のURLよりプレエントリーをお願いします。
プレエントリーはこちら

プレエントリー後に届く登録完了メールに、応募要項・本応募申請書ダウンロードの詳細がございます。応募書類をダウンロードの上、本応募申請書に必要事項をご記入ください。

提出書類が揃いましたら、以下メールアドレスに書類添付のうえお送りください。
送付先：innov@nikken.jp
タイトル：【会社名】本応募書類提出

提出書類一覧

1
本応募申請書
（事業推進サポート、プロジェクト管理、日建設計のリソースとの接続など）

2
決算書等の財務関連書類
（直近3年分）
※直近3年分が無い場合は、決算済みの直近年度分までをご提出ください。
※事業初年度の場合は、今期の事業計画をご提出ください。

3
事業内容が分かる資料
（企業説明資料など）

イベントのご案内

ご応募にあたり、下記イベントを開催いたします。お気軽にご参加ください！（説明会応募はこちら）

1	12月18日（水）12:00 - 13:00（オンライン）	プログラム説明会 #1
2	12月19日（木）19:00 - 20:00（リアル / オンライン）	プログラム説明会 #2 （説明会#1と同内容予定）
3	1月10日（金）12:00 - 13:00（オンライン）	締切直前！応募相談会

※ 12月19日回は共創の場「PYNT」で開催いたします。この機会に是非お越しください。
　同日は、説明会前18:30よりPYNTツアーの開催を予定しております。別途応募者にご連絡いたします。

住所：日建設計東京オフィス(本店)3F 〒102-8117 東京都千代田区飯田橋2-18-3

NIKKEN

EXPERIENCE, INTEGRATED